

Costume and Textile

No.34

服飾文化学会会報

2017年9月

2017（平成29）年度 第18回服飾文化学会大会の報告

平成29年度 服飾文化学会 第18回大会・総会は5月13日（土）・14日（日）の2日間にわたり、東京都千代田区にある共立女子大学にて実施されました。

天候に恵まれ、正会員93名、非会員2名、学生会員5名、学生非会員5名の合計105名の皆さまがご参加下さいました。以下はその報告です。

1. 口頭発表、作品・ポスター展示発表

研究発表件数は、口頭発表13件、作品展示発表15件、本年度のポスター発表は無く、合わせて28件でした。

能澤慧子会長の開会の辞に続き、口頭発表が行われ、13日は8件、14日は5件と発表件数も多数あり、活発な質疑応答が行われました。作品展示発表は、制作者の意図を理解するためにパワーポイントを用いたショートスピーチが各6分行われ、この形式は6回目を迎え、定着してきました。14日の昼食後、展示の前で熱心な質疑応答が行われました。



口頭発表の様子

2. 特別講演

東京国立博物館名誉館員の池田宏氏による「日本の甲冑」の講演が実施されました。

池田氏は長年にわたり日本の甲冑における調査研究

を行われ、多数の展覧会などを手掛けられてきました。またおもな論文として「美和神社所蔵 白糸妻取威鎧の残欠について」『MUSEUM』473号東京国立博物館（1990）、「徳川家康の甲冑—齒朶具足と南蛮朶具足を中心に—」特別展『徳川家康の遺愛品』三井記念美術館(2010)、「神社の宝物と神道美術」特別展『国宝大神社展』東京国立博物館(2013)などがあります。



特別講演での池田宏先生

講演の前半はレジュメをもとに、実物資料も披露頂きながら、日本の「甲冑」についての定義を説明頂きました。後半は豊富な画像資料が紹介され、甲冑の理解を深めることができました。まず「甲冑」の言葉や形態の変遷から始まり、続いて「甲冑」の製作に用いる素材の多様性について紹介を頂きました。例えば構成素材の革一つを取り上げましても毛皮、牛革、犬革馬革などの異なる素材が用いられます。そのため「甲冑」研究には幅広い知識と専門性が不可欠であることを理解致しました。更に日本の甲冑は色彩豊かである事を取り上げられ、その際、実物資料のカケスの羽根を見せて頂きました。その羽根の色の美しさがそのまま「甲冑」の組紐の表現に用いられていることなど、日本人の色に対する感性の豊かさ、それを「甲冑」に忠実に表する技術の素晴らしさを紹介頂きました。

た。「甲冑」は、日本の誇るべき技術が結集された貴重な文化財であることを改めて認識する貴重な機会となりました。



作品展示発表会場の様子

3. 博物館見学

共立女子大学博物館「和と洋が出会う博物館共立女子大学 コレクション・1」展を13日に各自で見学頂きました。マリアノ・フォルチュニーのドレスをはじめとした和（きもの）と洋（ドレス）が出会う博物館にふさわしいコレクションの数々をご覧頂きました。

4. 懇親会

初日13日の夕刻、大学2号館コミュニケーションギャラリーにて懇親会が開かれました。55名のご参加がありました。能澤慧子会長のご挨拶に続き、塚田耕一理事のご発声による乾杯により懇親会が始まり、参加者の皆さまには終始和やかな雰囲気でご歓談頂きました。特別講演の池田先生もご参加下さいました。



懇親会の様子

5. その他

展示作品はカメラマンの末正真礼氏により撮影されました。

会員の皆様のご協力を頂きまして、第18回大会・総大会を無事に終了することができました。皆様に深く感謝申し上げます。（大会実行委員 田中淑江）

第18回大会・総大会プログラム

〈5月13日（土）〉

・開会の辞 13:00～13:05

服飾文化学会 会長 能澤 慧子

・口頭発表 13:05～15:05

❖ 座長 新實 五穂（お茶の水女子大学）

A-1 英国プリントンズ社所蔵型紙コレクションにみる明治、大正期の染め型紙の実態

三菱一号館美術館 阿佐美淑子

A-2 英国ヴィクトリア朝のミドルクラスのファッションにみるオーナメンタリズム

筑波大学人文社会科学部研究科現代語・

現代文化専攻博士後期課程 長谷部 寿女士

❖ 座長 玉田 真紀（尚絅学院大学）

A-3 被服教育における伝統的着物とファッション着物の取り組みの可能性－「2015久留米絨グランドリングショー」を通して－

共立女子大学 ○田中 淑江 長谷川 紗織

大塚 絵美子 宮武 恵子

A-4 被服教育における伝統的着物とファッション着物の取り組みの可能性－「2016浴衣スタイルングショー」を通して－

共立女子大学 ○宮武 恵子 大塚 絵美子

長谷川 紗織 田中 淑江

A-5 マスク形状及び素材による漏れ率の調査
－防災服開発のための基礎研究－

お茶の水女子大学大学院人間文化

創成科学研究科博士後期課程 角田 千枝

❖ 座長 福田 博美（文化学園大学）

A-6 「かわいい」モードの源流を探る－雑誌『少女の友』表紙絵にみる髪飾りとしてのリボン－

共立女子大学非常勤講師 ○平田 麻里子

宮武 恵子

❖ 座長 藤田 恵子（家政学院大学）

A-8 東京藝術大学大学美術館所蔵「斎藤佳三関係資料」をめぐる報告:「婦人服デザイン『Illustration of Spring and Summer』」を中心に

お茶の水女子大学非常勤講師 安城 寿子

A-9 和服の着装に関する研究

ー現代と近代の着用方法の比較ー

共立女子大学非常勤助手 高橋 由子

・特別講演 15:30~17:00

演題:「日本の甲冑」

講師:池田 宏 氏

(東京国立博物館名誉館員)

・総 会 17:10~17:40

・懇親会 17:50~19:30

〈5月14日(日)〉

・口頭発表 9:00~10:15

❖ 座長 伊藤 瑞香(和洋女子大学)

B-1 卒業式の袴着装に関する研究(1)

ー色彩データの視点からー

共立女子大学 ○瀬川 かおり

大塚 絵美子 宮武 恵子

B-2 卒業式の袴着装に関する研究(2)

ーイメージ調査の視点からー

共立女子大学 ○太田 裕子 瀬川 かおり

大塚 絵美子 宮武 恵子

❖ 座長 大網 美代子(大妻女子大学)

B-3 第2帝政期パリ・モードにおけるロココ趣味

ーLa mode illustrée を中心にー

日本女子大学 内村 理奈

B-4 マリアノ・フォルチュニイ作《デルフォス》使用生地について

ー同時代の日本産絹織物との関係からー

東京家政大学博物館 三友 晶子

B-5 オートクチュール・ドレスの造形研究

杉野服飾大学 ○安部 智子 水野 真由美

森 淳子

・作品展示ショートスピーチ 10:20~12:00

❖ 司会進行 宮武 恵子(共立女子大学)

C-1 重なり表現の試み

ーポジャギ手法を用いてー

東京家政学院大学 松本 幸子

C-2 マクラメの基礎研究

ー七宝結びの要尺についてー

文化学園大学短大部 井上 昌恵

C-3 副資材を使用した装飾技法について

ーファスナーを使用したデザイン発想ー

文化学園大学短大部 小出 恵

C-4 真綿の服飾造形

同志社女子大学 藤本 純子

C-5 システムパニエーローブ・ヴォラントへの応用型ー

東京家政学院大学 富田 弘美

C-6 レプリカ制作を通してみる19世紀ヨーロッパのこども服ーコットン地ドレスー

東京家政大学 ○鈴木 由子 能澤 慧子

C-7 レプリカ制作を通してみる19世紀ヨーロッパのこども服ー毛糸編みのドレスー

東京家政大学 ○大塚 有里 能澤 慧子

C-8 西洋服飾史の技術と構造に関する研究(5)

ー1840年代から1860年代のクリノリンー

東京家政大学 ○倉 みゆき 能澤 慧子

C-9 オートクチュール仕立てによる舞台衣装の構造ーニナ・リッチのチュールレースのイヴニングドレスー

文化学園大学 ○陳 思遥 砂長谷 由香

C-10 和服地でデザインするフレアーの簡単ブラウス L'SPACE MODE DE KAJIMA 梶間 充子

C-11 古着物を利用した現代服の制作ー紹ー

文化学園大学 高木 幸子

C-12 伝統柄からのデザイン

ー英国風チェックと銘仙十字緋ー

大阪女子短期大学 内藤 千文

C-13 民俗芸能衣装の再現制作

ー「根子番楽」翁舞の襦袢ー

文化学園大学 角谷 彩子

C-14 環境問題に配慮したファッションのデザイン設計

文化学園大学 ○吉野 真由子 亀井 宏美

砂長谷 由香 永富 彰子

C-15 機能美に特化したユニバーサルファッションのデザイン設計Ⅲ

大妻女子大学 大網 美代子

・昼食 12:00~13:00

・作品展示の説明・質疑応答 13:00~14:00

C-1~C-15の各作品前で発表者が説明

特集記事 企画展「渡辺雪三郎オートクチュールコレクション」について

鈴木美和子（杉野学園衣裳博物館館長）

杉野学園衣裳博物館では、2015年12月、ファッションデザイナーの渡辺雪三郎氏よりオートクチュール作品51点の寄贈を受けた。これらは渡辺氏が1980年代から90年代にかけて制作し、シーズンコレクションとして発表した作品であり、内容はウエディングドレス、イブニングドレス、アフタヌンドレス、パーティ用スーツ等多岐にわたる。素材にはイタリア製シルク等を使用し、また、ディテールには日本刺繍やインド刺繍、スパンコール、ビーズ、フリンジなど多様な装飾が施され、これら全ての要素が渡辺氏の美意識により作り上げられている。

渡辺氏が「手で作る服」を初めてテーマとして掲げたのは1971年、オートクチュールに代わりプレタポルテが勢いを増す中でのことである。氏はこうした時代に敢えて「人の手」によって洋服を作ることを選び、人の手でしか表現することの出来ない温もりや存在感、そして何よりもその表現の自由度を作品に求め続けた。そこには、「人間にとって美は、真、善と同様に、何にも侵されずただ存在する普遍と考える」という一貫した信念があり、それこそが渡辺氏の作品制作の根底となっている。

2016年から2017年の2年間にわたり、寄贈を受けた51点を一般に公開する企画展として、「渡辺雪三郎オートクチュールコレクション」展を当館にて開催した。期間を2016年9月20日～2017年2月12日と2017年4月1日～8月10日の2期に分け、それぞれ25点（一部重複作品を含む）の作品を展示した。当館はその特色性から服飾への高い関心を持った方も多く訪れるが、そうした方たちからも、このような日本のオートクチュールを初めて目にしたという声が寄せられ、その豪華さに圧倒されながら、華やかな世界へと思いを巡らせる姿が多く見受けられた。中でもインド刺繍の

作品への関心は一際高く、メインビジュアルとなったウエディングドレスと並び、本展覧会の主要な作品となった。

また、会期中多くの中学・高校からの見学を受け入れた。西洋時代衣装の展示などと比べ、今回の展示内容が少々専門的であったため、興味を持ってもらえるか不安もあったが、どの生徒たちも皆熱心にメモやスケッチをとっており、服飾の専門的な知識を持たない生徒たちにとってもよい学習の場となったように思う。学内の学生はもとより、学外からも多くの方にご来館いただいたが、本展覧会が日本のオートクチュールへの理解を深める一助になったのであれば幸いである。

（写真1）衿ぐりにインド刺繍が施されたパーティ用スーツ。ボタンはスワロフスキー製のビーズで作られており、こうしたボタンもアトリエで制作されたオリジナルのものが使用されている。

（写真2）インド刺繍を施したベルベットのトップに、ボリューム感のあるチュールのスカートを合わせたカクテルドレス。バレリーナを思わせる愛らしいデザインから、来館者の人気も高かった作品のひとつ。

（写真3）脹れ織を扱った大胆なイブニングドレス。トレーンの内側には多数のタッセルが装飾されており、細部まで手の込んだ作品となっている。帽子デザイナー、平田暁夫氏のデザインによるバラの花を模ったヘッドドレスと共にコーディネートされた。

（写真4）本展覧会のメインビジュアルとなったウエディングドレス。トレーンには日本刺繍が施され、柄に合わせパールが縫いとめられている。シンプルなドレスながらも、トレーンの繊細な刺繍が目目を引く作品である。



（写真1）パーティ用スーツ



（写真2）カクテルドレス



（写真3）イブニングドレス



（写真4）ウエディングドレス

特集記事 生活文化博物館の紹介

藤田恵子（東京家政学院大学）

東京家政学院生活文化博物館は、1990年に東京家政学院大学町田キャンパスに開設されました。本学には、家政研究所（大正12年大江スミにより創設）以来築かれてきた生活文化研究の歴史があり、この蓄積は当館の教育・研究の大きな柱になっています。身近な暮らしと結びついた生活文化とその歴史を明らかにすることを目的として、関係資料の収集や調査研究をし、貴重資料の保管と展示をすると共に、展示目録の作成や年報を刊行しています。さらに、年一回の特別展や企画展などを開催したり、地域の生涯学習や博物館学芸員資格取得のための実習の場としても活用しています。また、毎年、卒業作品や授業での作品を展示する「学生作品展」も行っています。

主な収蔵資料は、衣服（仕事着、民族衣装、オートクチュール作品、教具、教材作品など）、装身具類（櫛、簪、玉類など）、工芸品類（漆器、ガラス器、木製品）など、各種の民族・歴史資料です。

以下、近年の特別展のいくつかを紹介します。2007年の「伝えたい、私の風景—模型でめぐる世界のくらし—」では、世界各国の遺跡や生活の一コマを切り取り、1/300の縮尺模型60点を展示しました。ヨーロッパ、アフリカ、西アジア、アジア、オセアニア、アメリカなどの設計図や写真も展示しました。

2010年には、20周年記念「子どもの誕生と日々のくらし—江戸時代から現代へ—」と題して、本学附属図書館「大江文庫」の子どもの誕生・祝い・日々のくらし・子どもへの思いを伝える版本や錦絵、お宮参りや七五三などの衣類、玩具などを展示しました。また、体験コーナーなども設置しました。「大江文庫」とは家政、家事（衣食住）、家庭教育、女子教育などについての歴史的研究に資する資料を集積したコレクションで、大江スミの業績を記念して名付けられました。

2013年には、創立90周年記念「本気で見せます！江戸の料理」と題して、『料理物語』（1643年）や、「百珍物」などの料理書を元に江戸時代の再現料理を食品サンプルで展示しました。これは、2000年に「大江文庫」との共催で展示したものをさらに充実させたものでした。2013年の展示は、料理書7点、料理は豆腐料理、鳥と卵料理、大根料理、鯛料理、揚げ物、菓子、本膳料理、会席料理などの標本31点に加えて、「江戸エコ行楽重」も紹介しました。折しも和食のユネスコ無形文化遺産登録の決定と重なり大反響で、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌などで取り上げられ、連日、取材対応に追われました。

衣の分野では2014年に「40年ぶりに目覚めたオートクチュール—P.カルダンとE.ウングロー—」（図1「P.カルダンのコート1980年秋冬」参照）では、アフタヌンドレス、カクテルドレス、イブニングドレス、ウェディングドレス、ツーピースドレス、スーツなど、当博物館所蔵の17点のオートクチュール作品を展示しま

した。ファストファッションに慣れた現代の学生も、手の込んだ丁寧な仕立てによる作品を身近に見て、ため息をもらっていました。

また、2015年には「うっとり—レース 一本の糸から作る美空間」（図2「裾飾り ラッセルレース」参照）では、レースのボーダー、ショール、ハンカチーフ、扇子、テープ、日傘、テーブルセンター、襟、袖口、ベビードレスなど約200点を、それらの製作過程で使用される道具と共に展示しました。繊細な糸から編んだり、結んだり、かがったり、組んだりして出来る作品の優美さにうっとりさせられました。

2016年には、「民族衣装ってポップ、刺繍」と題して、中国、台湾、タイ、アフガニスタン、インド、トルコ、スウェーデン、フランス、イギリスなどの民族衣装や、靴、袋物、手袋、帽子などを展示しました。衣装は主に祭りや儀礼などに用いられますが、カラフルな色彩は斬新でポップで明るい感じのものでした。

今秋には「きもの、いとをかし—日本各地の伝統染織品と和服コレクション—」を予定しています。

来年の総大会にご参加の折には、是非当館にお立ち寄りいただけますようご案内申し上げます。



図1 「P.カルダンのコート1980年秋冬」

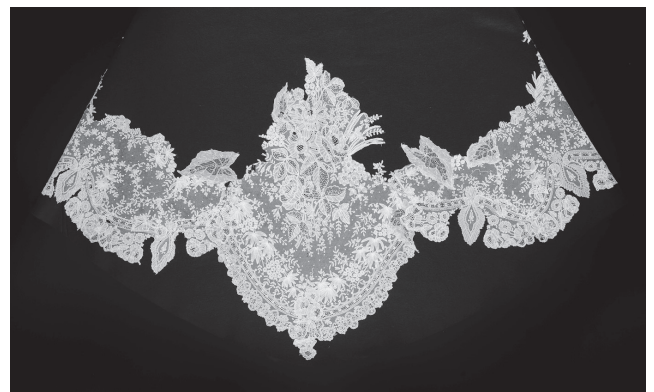


図2 「裾飾り ラッセルレース」

2017年度 第18回 夏期セミナーの報告

今年度の夏期セミナーは平成29年8月8日（火）～10日（木）の2泊3日の日程で、北関東の群馬県富岡市・桐生市、栃木県那須塩原市・真岡市、茨城県結城市にて実施されました。今年も台風の影響が心配されましたが、当日の早朝には天候が回復し、予定通りの開催となりました。

第1日目 8月8日（火）

JR高崎駅で集合し、貸切バスに乗り込みセミナーがスタートしました。約1時間で最初の見学地である富岡製糸場に到着しました。2014年に世界文化遺産に指定されたこともあり、たくさんの観光客で賑わっていました。専従ガイドの案内とVR（仮想現実）グラスをつけて場内を回ります。VRグラスには現在の様子と合わせて、創業時の再現映像等が画面に映し出され、より詳しく当時の様子を知ることができました。ガイドの説明を聞きながら当時の最新鋭であった工場や機械を見て回った後、自由行動では施設内で繭から糸を繰る実演や蚕の飼育などをじっくり見学しました。

高速道路をバスで那須塩原市まで移動し、宿泊の那



懇親会



結城紬の糸紡ぎ実演

須ミッドシティホテルに到着しました。夕方からホテルのレストラン「オールヴォワール」にて懇親会が開催されました。服飾文化学会 能澤慧子会長のご挨拶に続き、伊藤一郎先生が乾杯のご発声をされて会が始まりました。地元の野菜などを使ったコース料理と美味しいワインで、テーブルの各所で歓談の声が上ががり、楽しいひとときを過ごしました。

第2日目 8月9日（水）

ホテルでの朝食後、貸切バスで出発し、大麻博物館に到着しました。高安淳一館長が出迎えて下さり、現在の衣料に使われる麻と大麻との違い、大麻が日本の生活でどのように利用されてきたのか等、詳しいご説明を受けました。分かりやすい実演もあり、大麻がいかに衣料素材として優れているのか教えて頂きました。

昼は益子焼で有名な益子市に移動しました。各自で益子焼窯元共販センターを見学し昼食を頂きました。また希望者は近隣にある陶芸家で人間国宝である濱田庄司記念益子参考館まで足を延ばし、濱田氏の作品を見学しました。

昼食後は真岡市にある真岡木綿会館を訪れました。江戸の木綿問屋の木綿仕入高の約8割が真岡木綿だったというほど、関東を代表する木綿でした。会館では真岡木綿の伝承を受け継ぎ、糸紡ぎや機織りの説明・実演を行っています。工場では機織りを見学し、さらに機織り技術者の方々に説明して頂くことで、真岡木綿の高い品質と手仕事を目の当たりにしました。会館の奥には栃木県指定有形文化財の岡部記念館金鈴荘があり、紫檀・黒檀を用いた重厚な床の間や美しい日本



つむぎの館にて真綿の実演

庭園などを見学しました。

次に結城市に移動し、本場結城紬奥順資料館・つむぎの館を訪れました。奥順5代目の奥澤順之氏の案内で本場結城紬の工房に伺い、結城紬特有の糸紡ぎ、印つけ、機織りの実演を見せて頂きました。繊細な作業や根気の必要な地機の様子など、職人さんの手元を間近でじっくりと見る事ができる貴重な機会となりました。続いてつむぎの館では奥澤氏による結城紬についてのレクチャーの後、新しい感覚で作られた結城紬の作品を見学しました。

見学後は、突然の大雨が降るなかバスに乗り込み、桐生市まで移動、ホテルパークイン桐生に到着しました。夕食は自由行動で、名物「ひもかわうどん」を召し上がった方もいらしたようです。

第3日目 8月10日(木)

最終日は桐生市を見学して回りました。最初に後藤織物に伺いました。文化財に指定された糸倉庫やノコギリ屋根の織物工場は大正時代の建築で、当時の桐生の織物産業の盛況を伝えてくれます。明治時代の賞状、写真、帯などの展示に合わせて、工場で製作中の織物を見学しました。



後藤織物さんのお庭で

続いて桐生織物記念館を訪れました。ここは桐生織物協同組合による「織物のまち・桐生」を伝える展示施設として平成24年にオープンしました。桐生織物の歴史、工程について、数多くのパネル、織物製品、資料、機織り機を展示しています。機織り機は実際に体験することもできます。係員の方の説明を聞きながら、熱心に見学し、さまざまな質問が飛び交っていました。

昼食は割烹一婦美で頂きました。風情ある日本家屋のお座敷で、きれいに盛り付けられたお弁当は美味しいだけでなく、どれも手が込んでいて目にも美しいも

のでした。

昼食後は小林当織物に伺いました。「コバトウ」とも呼ばれるこちらの工場では最新鋭のジャガード織機を導入し、高品質の織物を生産しています。桐生の伝統的な織物から現代風のものまで、あらゆる織物を製作されており、欧米の有名ブランドに使われることも多くあるそうです。多くの方が保存されているサンプルに目を奪われていました。

最後に訪れたのはイヅハラ産業です。特許であるウェーブ織やオリジナルのスカート織など、桐生の高い織物技術を活かした織物と製品の数々に感嘆の聲が上がりました。工場では最新の機織り機の糸替えの実演も見ることができました。

見学後、東武線新桐生駅に向かうバスの中で解散式となりました。なお参加者は学生2名を含む23名でした。

(夏期セミナー担当委員 中川麻子)

第18回(平成29年度) 夏期セミナー スケジュール

8月8日(火)

- 12:15 : 集合・受付 JR高崎駅新幹線改札口前
- 12:30 : 出発(貸切バス利用ーバスガイドあり)
- 13:30~14:45 : 「富岡製糸場」
(群馬県富岡市 専従ガイドの案内)
- 17:30 : 「那須ミッドシティホテル」着
(JR那須塩原駅前)
- 18:30~20:30 : 懇親会 ホテル1Fレストラン
「オールヴォワール」

8月9日(水)

- 08:45 : ホテル出発(貸切バス利用)
- 09:15~10:30 : 「大麻博物館」(栃木県那須町)
- 12:30~13:15 : 昼食「益子焼窯元共販センター」
- 13:30~14:30 : 「真岡木綿会館」(栃木県真岡市)
- 15:30~17:00 : 「本場結城紬 奥順 資料館・つむぎの館」(茨城県結城市)
- 18:45 : 「ホテルパークイン桐生」
(JR桐生駅前着 フリータイム)

8月10日(木)

- 09:00 : ホテル出発(貸切バス利用)
- 09:30~10:30 : 「後藤織物」(群馬県桐生市東)
- 11:00~12:00 : 「桐生織物協同組合・桐生織物記念館」
(桐生市永楽町)
- 12:15~13:15 : 昼食「割烹一婦美」(桐生市仲町)
- 13:30~14:30 : 「小林当織物」(桐生市仲町)
- 15:00~16:00 : 「イヅハラ産業」(桐生市広沢町)
- 16:30 : 閉会・解散
東武線 新桐生駅・JR両毛線桐生駅

会計報告

①服飾文化学会 平成28年度収支決算書(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

項目	予算	決算	予算との比較(△減)	備考
収入				
(1)年会費	1,311,000	1,413,000	102,000	H28 6,000×3 H28 6,000×205、3,000×13 H27 6,000×11、3,000×1 H26 6,000×5、3,000×1 H25 6,000×2 H24以前 6,000×2 1,000×11、500×3 3,000×17
(2)入会費	10,000	12,500	2,500	
(3)年間購読料	51,000	51,000	0	
学会誌				
(4)論文編掲載料	450,000	626,000	176,000	Vol.17(掲載料)、3,000×10(審査通信費)
(5)作品編掲載料	400,000	450,000	50,000	Vol.9(掲載料)、3,000×12(審査通信費)
その他	0	28	28	利子 28
繰越金	90,493	90,493	0	
財政調整積立金	163,507	163,507	0	財政調整積立金より組み入れ
収入計	A 2,476,000	2,806,528	330,528	
支出				
(1)経費				
1)総会運営費	150,000	150,000	0	
学会誌				
2)論文編発行費	650,000	822,355	172,355	
3)作品編発行費	700,000	851,780	151,780	
4)事務管理経費	200,000	101,600	△ 98,400	
5)通信費	100,000	34,424	△ 65,576	
6)会報発行費	150,000	184,160	34,160	会報No.32,33
7)事務用品費	70,000	98,228	28,228	
8)会議費	50,000	39,393	△ 10,607	
9)交通費	50,000	19,072	△ 30,928	監査・理事会交通費(実費上限2000円)を含む
10)雑費	10,000	9,072	△ 928	大会開催校への手土産
(2)事業費				
1)事業費A	60,000	68,927	8,927	研究例会
2)事業費B	160,000	145,214	△ 14,786	論文発表会
(3)広報費	120,000	109,426	△ 10,574	ホームページ作成費を含む
(4)交流費	6,000	5,216	△ 784	生活科学系コンソーシアムH28年度会費
支出計	B 2,476,000	2,638,867	162,867	
収支差額	A-B	0	167,661	
次年度繰越金		0	167,661	

②服飾文化学会 平成28年度財政調整積立金収支報告書

項目	収入	支出	残高	備考
前年度繰越金			1,124,761	
大会・総会余剰金	63,967			
夏期セミナー余剰金	69,131			
			1,257,859	
項目	収入	支出	残高	
服飾文化基金	1,000,000			H21年度
	1,000,000		2,000,000	H22年度

③服飾文化学会 平成29年度収支予算(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

項目	予算額	前年度	前年度との比較(△減)	備考
収入				
(1)年会費	1,400,000	1,311,000	89,000	
(2)入会費	10,000	10,000	0	
(3)年間購読料	54,000	51,000	3,000	3000×17
学会誌				
(4)論文編掲載料	550,000	450,000	100,000	
(5)作品編掲載料	420,000	400,000	20,000	
その他	167,661	0	0	
繰越金	0	90,493	77,168	
財政調整積立金の	0	163,507	△ 163,507	
収入計	2,601,661	2,476,000		
支出				
(1)経費				
1)総会運営費	150,000	150,000	0	
学会誌				
2)論文編発行費	700,000	650,000	50,000	カラー写真補助5万円を含む
3)作品編発行費	750,000	700,000	50,000	大会発表時の記録7万円を含む
4)事務管理経費	200,000	200,000	0	美文ネイティブチェック5万円を含む
5)通信費	89,661	100,000	△ 10,339	
6)会報発行費	160,000	150,000	10,000	
7)事務用品費	60,000	70,000	△ 10,000	
8)会議費	47,000	50,000	△ 3,000	
9)交通費	40,000	50,000	△ 10,000	監査・理事会交通費(実費上限2000円)を含む
10)雑費	10,000	10,000	0	
(2)事業費				
1)事業費A	60,000	60,000	0	研究例会
2)事業費B	160,000	160,000	0	論文発表会
3)事業費C	60,000	0	60,000	理事選挙
(4)広報費	110,000	120,000	△ 10,000	ホームページ作成費を含む
(4)交流費	5,000	6,000	△ 1,000	生活科学系コンソーシアム会費
支出計	2,601,661	2,476,000		
収支差額	0	0		

④財政調整積立金及び服飾文化基金の増減

	H28年度末残高	当期増加額	当期減少額	当期残高
財政調整積立金	1,257,859	0	0	1,257,859
服飾文化基金	2,000,000	0	0	2,000,000

* H27年度より特別会計の名称を財政調整積立金と変更

**** 事務局より ****

●新入会員 (敬称略 申し込み順)

正会員

- 松 梨 久仁子 (日本女子大学)
- 辻 元 玲 子 (軍装史研究家、イラストレーター)
- 阿佐美 淑 子 (三菱一号館美術館)
- 田 中 早 苗 (東京家政大学)(購読会員から種別変更)
- 今 井 悠 瑚 (和洋女子大学)
- 近 藤 恵 (お茶の水女子大学)
- 安 城 寿 子 (お茶の水女子大学・非)(再入会)
- 石 関 亮 (京都服飾文化研究財団)(再入会)
- 学生会員
- 太 田 裕 子 (共立女子大学大学院博士前期課程)

藤 本 和賀代 (奈良女子大学大学院博士後期課程・徳島文理大学短期大学部在職)

●退会者

正会員

- 江 良 智 美 榎 本 千津子
- 近 藤 静 香 豊 田 桜 子
- 川 口 えりこ 小笠原 小 枝
- 青 木 あすみ 蒲 地 香津代
- 山 本 理 香 朝 倉 三 枝
- 山 口 直 子

***** 研究例会のお知らせ *****

日 時：平成29年10月21日(土) 13:30～16:05

会 場：東京家政大学 120-3B講義室

(120周年記念館 3階) 1

講演題目：「軍服 その歴史とイラストレーション」

講 師：辻元よしふみ氏(服飾史・軍装史研究家)

：辻元 玲子氏(歴史考証復元画家)

近年、主に欧米の軍装史についての書籍を多数著してきたお二人に、軍装の歴史、その一般の服装への影響、そのイラストレーションの面白さなどについて語って頂きます。

◇◇◇◇◇ 展覧会のお知らせ ◇◇◇◇◇

■特別企画展「辰五郎と滋の見た 明治の衣生活大転換」

会 期：平成29年10月19日(木)～11月24日(金)

休館日：日曜・祝日、10/30(10/29は学園祭のため開館)

会 場：東京家政大学博物館(東京家政大学板橋キャンパス内・百周年記念館5階展示室)

概 要：渡邊辰五郎(東京家政大学創設者)と渡邊滋(二代目校長)の視点を取り入れながら、明治時代の服装の変化をたどります。

***** 近著紹介 *****

☆『もようを織る バスケットから幾何・布から曲線』

小林桂子著 日貿出版社 2017年3月

☆KIMONO au bonheur des dames sous la direction de Iwao Nagasaki et de Aurélie Samuel, Gallimard./ Musée national des arts asiatiques-Guimet, Paris, 2/2017

☆『ヨーロッパに眠る「きもの」 ジャポニズムからみた在欧美術館調査報告』 深井晃子、長崎巖、周防珠実、古川咲著 東京美術 2017年3月

☆『歴史のなかの異性装 (アジア遊学)』 服藤早苗・新實五穂編、勉誠出版 2017年6月

会報 No.34：2017(平成29)年9月30日発行

編集発行人：服飾文化学会

事務局：173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1

東京家政大学服飾史研究室

TEL：03-3961-8273

E-mail：nohzawa@tokyo-kasei.ac.jp

URL：http://www.fukusyoku-bunka-gakkai.jp